

信州遠山郷「天に至る まつり古道」

■地域のねらい

- ・沿道に展開する景観、自然、歴史、文化、食等の地域資源を活用した「おもてなしの心」による人々の交流で地域の活性化を図る。
- ・地域住民等が主体となり、伝統文化の継承、地域資源の保全等による美しい魅力あふれる景観づくり、活力ある地域づくりの推進を図る

■活動エリアと地域資源

- ・南アルプス南部の山峡に位置する遠山郷（上村・南信濃地区）は古くから秋葉街道の宿場街として栄え、現在では日本の原風景が残されている貴重な地域である。
- ・旧秋葉街道を中心とする国道152号、256号、418号、市道、林道で遠山郷の原風景を繋ぐ道筋、周辺の地域資源を対象
- ・南アルプス、しらびそ高原、遠山の霜月祭り、御柱祭り、御池山隕石クレーター、下栗の里、木造校舎、かぐらの湯、峠の国盗り綱引き合戦など貴重で魅力ある資源が豊富に存在している。

■地域の活動推進体制

- ・信州遠山郷「天に至る まつり古道」推進協議会（パートナーシップ）
遠山郷観光協会、上村地域自治区まちづくり委員会、南信濃まちづくり委員会、下栗里の会、上町活性化委員会、上村遠山霜月祭保存会、木沢地区活性化推進協議会、遠山郷神様王国実行委員会、遠山霜月祭保存会
- ・道路管理者 長野県、飯田市（飯田国道事務所）



アルプス展望台「しらびそ高原」

国の重要無形民俗文化財
800年の伝統を受け継ぐ
「遠山の霜月祭」



(南信濃地区)



日本のチロル「下栗の里」



道の駅 遠山郷「かぐらの湯」



(上村地区)